

【鳶尾小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和4年11月3日（木・祝）	鳶尾小学校体育館	10時～	31人
		14時～	19人
		17時～	3人
		合計	53人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	7件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただき、市の回答は記載していません。

【質問】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

○ 通学区域の変更とはどのような手法か。

→ 通学区域の変更は、現在の通学区域を変更し、対象区域の児童・生徒を別の就学校の通学区域に変更することで学校規模の適正化を図る方策となります。

○ 今、市全体では平均だと何学級程度あるのか。また市として荻野地域で何学級程度になることを見込んで取組を進めているのか基準があれば教えてほしい。

→ 現在の市立小学校の平均学級数は15学級程度になっていますので、学年当たりだと2～3学級程度となっています。また、市として荻野地区において何学級程度を見込んでいるのかということについては、先ほどの説明でお示ししたとおり、学年当たり2～4学級になります。その中においても、クラス替えが可能となることや習熟度別学習を実施しやすくなること、学年に

複数の教職員を配置できることなどから、学年当たり 2 学級は維持できることが望ましいと考えています。

○ 今回、仮に統廃合をせずに今までどおりとなった場合、今後 5 年後くらいにまた同じような話が持ち上がる可能性があるのか。それとも一度決定したら当分同様の検討は行わないものなのか伺いたい。

→ 検討に当たっては、10 年後、20 年後を見据えて行うものとなりますので、今回の検討で方向性が定まったものを、また数年後にすぐに再検討するということは想定していません。例えば、新たに大規模開発が行われるなど地域や学校の状況が大きく変わるような事案が生じない限り、一定期間市としての考えが変わることはないものと考えています。

○ 今後の検討スケジュールについて、来年 1 月にアンケート調査をして、最終的な方向性が決まるのはいつ頃か。意見交換会のときには方向性は定まっているのか。

→ 現在想定しているスケジュールとしては、年明けにアンケート調査を実施させていただき、そのアンケート結果を踏まえて市として基本的な考え方を整理していきたいと考えています。その後、具体的に市がどのような方策を考えているのかをお示しした上で意見交換会を開催し、市の考えに対する御意見をいただきたいと考えています。意見交換会での御意見を踏まえ、方策の方向性を決定したいと考えています。

○ 通学区域の変更や統廃合を実施することになった場合、どれぐらいのスケジュールを見込んでいるのか。過去の実績などでは、決定から実施までどれぐらいのスケジュールだったのか。

→ スケジュールの目安につきましては、説明資料 31 ページに記載させていただいていますが、各地域に設置する検討組織における検討で 1 年程度、その後の計画策定や実施への準備等で 2 年 6 か月程度の期間を設けていますので、合計で 3 年 6 か月程度を見込んでいます。本市においては通学区域の変更は過去に実施した例がありますが、学校の統廃合を実施した事例はありません。このため、スケジュールの目安については他自治体の事例等を踏まえ設定していますが、スケジュールありきで取組を進めていくものではございません。

○ 統廃合を実施する場合、在校生も対象となるのか、それとも在校生がいるうちは実施しないといった考えがあるのか伺いたい。

→ 方策の実施時期については、現状では決まっていません。スケジュールの目安では最短で令和9年度となっており、その場合は在校生にも影響があるものと思います。そうしたことを踏まえ、実施時期は、検討組織による検討の中でどのタイミングが望ましいのか審議いただく予定です。

なお、仮に統廃合を実施することになった場合につきましても、例えば来年からだとか、再来年からだとか、そういったことは無いようにしていく予定です。実施に当たっては十分な準備期間を設けていく必要があると考えています。

○ 玉川小学校では小規模特認校制度が導入されているとの説明があったが、なぜ玉川小学校にその制度が導入されたのか知りたい。

→ 小規模特認校制度は平成28年度から実施していますが、当時、玉川小学校は小規模化が進み、そうした中で学校の統廃合ではなく、市内全域から通学できる小規模特認校制度を導入したものです。

現状では、毎年度5人程度の児童がこの制度を利用し玉川小学校に入学しており、一定程度の効果があるものと認識しておりますが、近年の玉川小学校の児童数の推移を見てみると、この制度だけで学校規模を維持していくことは難しいという面もあるため、玉川小学校についても改めて学校規模適正化の方策を検討することとしています。

○ 仮に鳶尾小学校と荻野小学校を統合する場合、新しい学校は、現在の場所で継続するのか、新たな土地に建設するのか。

→ まずは、皆様からの御意見を踏まえて、学校の統廃合を含めた方策を検討する必要があります。その上で、仮に統廃合を実施する場合は、学校の規模や通学の利便性を考慮して検討する必要がありますので、アンケート調査や意見交換会で皆様からの御意見を伺った上で、案を提示させていただきたいと思います。

○ 荻野小学校と荻野中学校は小中一貫校になる可能性はあるのか。また、鳶尾小学校と上荻野小学校は、荻野小学校に全て統合するのか。市の考え方を知りたい。

→ 具体的な方向性はまだ決まっていません。また、小中一貫教育については、義務教育の9年間を通じた小中一貫教育と、施設を一緒にする小・中一体型施設の2つがあります。その両方について教育環境の維持・向上を検討していく必要があるものと考えています。

- 鳶尾5丁目に在住しており、鳶尾小学校よりも荻野小学校の方が近くに立地しているため、できれば荻野小学校に通学させたいが、そのような選択は出来ないのか。
- 現在、基本的には、お住まいの住所に基づく就学指定校に通学いただいています。その中において、特別な事情等がある場合については、個々の事情に応じて、対応をさせていただくものとなります。

（教育環境）

- 教職員の多忙化について、学校規模が小さくなると負担が増えるという記載があったが、単純に考えると生徒が増えれば、1クラス当たりの人員が増えたりする関係で、大規模の方が忙しくなるように思うが、どういうことなのか。
- 学校の学級編制については法律で、小学校が1学級当たり35人、中学校は1学級当たり40人以下で編制することが定められています。そのため、仮に1学年当たりの児童数が25人の学校と50人の学校があった場合、学級数はそれぞれ1学級、2学級になりますが、学級当たりの児童数はどちらも25人で変わりません。その意味では、児童・生徒数の多寡と担任が受け持つ人数は必ずしも関連しません。
小規模校において教職員の負担が重くなる理由としては、学校規模に応じて配置される教職員の人数が決まるため、小規模な学校には配置される教職員数は少なくなります。そうした中において、学校規模に関わらず実施しなくてはならない校務や行事等を実施する必要があるため、その場合、どうしても一人当たりの教職員の負担が重くなってしまうことなどが挙げられます。

（通学関係）

- 学校の統廃合を実施した場合、通学の長距離化や長時間化が発生するのは仕方がないが、安全対策は今後どのように決めていくのか。
- 統廃合を検討する際には、それに伴う通学の安全対策や負担軽減策はセットで考えていく必要があると認識していますので、その対策も含めた上で、検討を進めていきたいと考えています。
- 適正配置の方策としてスクールバスの運行が位置付けられていますが、もしスクールバスを導入する場合、費用は保護者が負担する必要があるのか、現時点での考えがあれば教えてほしい。また、他自治体の事例等で分かるものがあれば教えてもらいたい。
- スクールバス導入時の費用負担の在り方については、現時点で市としての

考えをまとめたようなものはありません。他の自治体の事例ですと、自治体が全額負担している場合と、保護者に一定の負担を求めている場合とそれぞれございます。10年ほど前に文部科学省が実施した調査では、保護者に負担を求めている自治体は1割、残りは自治体が全て負担しているとの結果でした。市としては、こうしたものを参考にしつつ、検討を進めていきたいと考えています。

（地域づくり・地域コミュニティ）

- 学校の統廃合を実施し、新しく学校を建設する場合、既存の学校施設の跡地に老人施設を建てるなどの考え方はあるか。
- 学校施設は地域の防災拠点や活動拠点としての役割もあるため、地域の方の御意見を伺いながら、学校跡地の在り方を検討する必要があるものと考えています。

（その他）

- 荻野中学校は令和12年度に何学級となる見込みか。
- 令和3年度に実施した推計では、令和12年度に9学級程度になる見込みです。これは、適正規模の望ましい学級数である9学級から18学級の範囲内となります。
- 国では1学級当たりの定数を小学校は35人、中学校は40人としているが、教育環境の向上や教職員の働き方改革のために、もっと少人数学級を取り入れていくべきだと考える。厚木市は、国の基準どおりに学校規模を決めていくのか。
- 厚木市で独自に少人数学級を実施するには、人材の確保や財政的負担など課題が多いことなどを踏まえ、国が示す学級編制の基準を前提に、適正規模・適正配置の取組を進めていきたいと考えています。

【意見】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- 児童同士の関係でトラブルが起きた際に、1学級しかない学校は対応に課題が多いと感じるので、複数のクラスがあるほうが望ましいと思う。また、通学に関して、特に1年生は、天候が良くない日の通学は負担が大きくなると思う。
- 今回の説明会では、現時点で何も決まっておらず、今後、意見を聞きなが

ら決めていくという説明があったが、本当は市として考えているところがあるはずなので、それをはっきり具体的に示してもらった方が議論は進むのではないか。この資料を見る限り統廃合を実施するようにしか見えない。確かにいろいろな意見を聞いてまとめるというのは民主的かもしれないが、みんなの意見を聞いても現実的には意見をまとめるのは難しいのではないか。アンケートで児童の保護者が自分の近くの学校が無くなることに賛成という意見を出すことはないと思うし、そういう意味でも市の考えを前に出さないとまとまるものもまとまらなくなってしまうのではないか。

（教育環境）

- 厚木市は、教育環境日本一を目指している自治体として、全国に先駆けて、少人数学級の実施を推進してほしい。これから、子どもの人数が減っていくので、1学級の規模を小さくし、教職員の負担を軽減できるよう取組を進めてほしい。
- 児童が伸びやかに成長できるように、1学級当たり25人程度の学級を実現してほしい。また、それに伴い、教員数も増やして対応してほしい。

（通学関係）

- 学校の統廃合により、仮に鳶尾小学校から荻野小学校に通うことになった場合、徒歩での移動時間に大きな差はないので問題はないが、上荻野小学校の児童は、徒歩で通うのは現実的に厳しいと思う。また、荻野小学校は、歴史ある学校なので、統廃合により廃校にしてしまうのは難しいのではないか。
- 仮に鳶尾小学校、上荻野小学校が荻野小学校に統合した場合、上荻野小学校からの通学距離が心配である。また、学級数について、児童が切磋琢磨し合い、多様な友人関係を築くことができるという教育的効果を考えると、各学年に複数のクラスが必要だと考える。教員数についても、なるべく多くの教員がいることで、児童の個性に応じて、様々な教員と接することができる。

（地域づくり・地域コミュニティ）

- 非常時における地域内の横のつながりは重要であり、地域の防災拠点となる場所が必要だと考えるので、学校施設の跡地については危機管理課を含めて検討してほしい。

(その他)

- 説明資料 30 ページに記載されているが、令和 12 年度と令和 22 年度の児童数がほぼ横ばいの見込みになっているが、かなり楽観的な見込みのように感じる。今後、荻野地域の 3 小学校を 1 小学校に統合することを考えられているかもしれないが、さらにその先を見据えて検討していく必要があるのではないか。

【意見提出用紙による意見等】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- △ 鳶尾小学校はクラス 25 名程度で児童数は少ないが、先生の目はとても行き届いていると感じるので、1 クラスの人数が増えるとかえって目が行き届かなくなってしまう不安はある。

また、仕事をしているので、児童クラブも利用しづらくなってしまうのではないかという不安もある。

そもそも荻野地区の児童数が少ないのは不便であるから住みたい人が減っているのだと思うので、駅直通のコミュニティバスを日に何本か出す等の検討は必要だと思う。

- △ 荻野地区の児童数、生徒数を踏まえると小学校の統廃合は今後検討していく必要がある課題だと思った。また、厚木市の財政は現在全国的にも健全ではあるが、少子高齢化を考えると、適切な予算配分は必要であり、教育に掛けられる予算も限られている中で、適正な規模や配置は検討していく内容だと思った。

意見としては、現実的には上荻野小学校、鳶尾小学校を廃止し、荻野小学校に統合するのが現実的かと思う。上荻野小学校、鳶尾小学校の中間の位置にあり、また小学校卒業後の中学校進学を考えるといずれの小学校も、荻野中学校に通学することになる。また、荻野小学校は荻野中学校と隣接しており、荻野中学校の敷地の一部改修工事をすれば、地下連絡道を通じて接続することができる。荻野中学校はかつて、27 クラス以上あったと思うので、小中一貫教育といった選択肢もありえるし、一貫でなくても隣接することで、小学生と中学生の交流教育、また教職員同士の連携も可能になる。課外クラブ活動では、生徒同士、教員同士が互いに教え合える環境が整い、体育館、プール、校庭を共有することで、多くのアイデアが生まれ、より良い教育環境ができると思う。また、一部の施設、設備を共有することで、無駄な予算の削減、給食などの一括提供など、さまざまな面で経済的なメリットも生まれると思う。

通学に関する問題は、幸い国道 412 号線をメインとした公共交通機関もあ

り、またコミュニティバスの利用などもあり、一部の地域の方には、負担が掛かる面はあるが、全体的なメリット、小・中学校施設を共有することでの新たなスケールメリットが生まれると思う。その中で、新しい教育のカタチ、新しい教育現場の働き方など、次世代的な取組ができると思う。

以上の内容を踏まえると、小学校については荻野小学校への統合、または荻野小学校、荻野中学校含めて小中一貫校、一貫教育体制にするとよいのではないかと思った。

- △ 4年前くらいに厚木市に引っ越してきた。家を買う際、小学校がとても近くてよいと思い、今住んでいる家を選んだ。現在、未就学児の子どもが2人いるが、2人とも同じ学校に通わせたい。また、家から近く安全に通学させたいという思いがある。学校が変わることで、学校に対する思い入れや友人関係の変化など、いろいろな問題があると思う。その不安面も今後の方向性に汲んでほしい。

（通学関係）

- △ 統廃合することは賛成だが、大きな道路や道の整備がなかなか進んでいないので、学区や通学路の整備を先にしてほしい。
- △ 例えば鳶尾小学校がなくなって、荻野小学校へ統合となった場合、一年生が歩いていくのは少しつらい気もする。スクールバスも、全部の範囲で出るのか。
- 新しく家を買っている人たちも、もしかしたら小学校がなくなるかもとなれば、買うのをためらうのではないか。
- △ 小学生において45分以内の通学は、今の気候ではとても危険ではないか。10分の距離でも、真夏は顔を真っ赤にして帰ってきている。熱中症などがとても不安。出来るだけ、徒歩距離の負担を増やさない方向での検討をお願いしたい。

（地域づくり・地域コミュニティ）

- △ 学校跡地について、地域の防災拠点や、放課後の児童・生徒の居場所づくりにいかされることは良いことだと思う。